



# 診察室における言葉の玉手箱 ～はじめに～

川崎幸クリニック院長  
杉山 孝博

## はじめに

「合点がいく」「腑に落ちる」という言葉があります。疑問に思っていることや、不安に思っていることが、わかりやすい説明によって、納得できて、その人の心の奥底に響いたときに感じる状態であるといえます。

医学の世界で、「インフォームド・コンセント」というのは、「説明と同意」と簡単に訳されることがありますが、医療行為を実施するにあたって、素人である患者にわかりやすく説明した上で、患者自身が納得して、その医療行為の実行に同意をすることを意味します。患者が十分納得するためには、医師がわかりやすく説明することが前提になります。

しかし、検査データや画像を次々に提示し、難しい専門用語を使い、想定される出来事の可能性や確率を述べた後、患者に対して、「さあどれを選択しますか。選択は患者さんの自由です。よくお考え下さい」と言って、満足している医師のなんと多いことか。

「自分が患者や家族の立場であったら、どう理解できるか、どう感じるか」と考える姿勢がなければ、「インフォームド・コンセント」は成り立たないと思います。

診察室などで、「飲酒はだめですよ」「運動が大切ですよ」「太らないようにしましょう」などと、それ自体は正しくても、一方的に言われたら、患者の心に響きませんし、おそらく実行されないと思います。何十分の時間をかけても難しい言葉の羅列では効果は得られないでしょう。逆に、患者自身が「なるほど」と思える説明であれば、数分間でも十分な効果を挙げることができると思います。

私の専門は一般内科ですが、病気について理解できないために悩んでいたたり、医師の説明が不十分なためかえって混乱を深めてしまっている患者を多く診察しています。外来診療は短時間で患者・家族に納得してもらわなくてはなりません。診察室で患者と交わっている会話を、「診察室における言葉の玉手箱」としてまとめてみました。医療・福祉関係者、患者・家族など、関心をもつ方々の参考になれば幸いです。

2020年8月





「みんなの健康ちゃんねる」では、  
杉山孝博医師の【診察室における言葉の玉手箱】を  
下記のテーマで毎月連載していきます。  
どうぞお楽しみに。

## テーマ一覧

1. 『健康をたもつための会社』に通勤する
2. 一生の割り当てを飲みきった
3. めまいがあっても理解があれば不安でなくなる
4. 動悸がする
5. 手足がしびれる一心の動き（情動）と身体の症状とは密接に影響しあうもの
6. 不眠症ではなく、不眠恐怖症です
7. 「人間は植物ではなく、動物ですよ」
8. うそ発見器
9. からだを大切にすることは、使うこと
10. 一山乗り越えて強くなる
11. 聴覚は最後まで残る
12. おばあちゃんの作った料理は塩辛い！
13. 夜中に尿がたくさん作られることによって、やっと帳尻が合う
14. 障害を持つということは、鉄橋がつり橋になり、平地が高い塀になると同じこと
15. 筋肉が強くなるとはじめて関節の痛みが軽くなる
16. 骨が変形しているから痛いわけではありません
17. 歩数計への支出は、健康に関する最も効率的な投資である
18. 症状は、身体に何か変化が起こっているという警報ベルと同時に、身体を治す大事な仕組みの一つでもある
19. ビタミンは潤滑油と同じ
20. 降圧剤はおもりと同じ
21. リハビリテーション10か条
22. 割り切り上手は、介護上手
23. 豊かな老後とは

